

春日井で全国トンネル廃線サミット

鉄道遺産「活用こそ」

鉄道廃線やトンネルなどの保存活動をしている市民団体が集まり、春日井市のホテルで31日、「全国トンネル廃線活用サミット」が初めて開かれた。持続可能な運営に必要なものや、行政との連携、若い世代へのアピールなどについて約150人の聴衆も一緒に、3時間半議論した。



具体策、聴衆交え熱論

参加団体は地元のNPO法人・愛岐トンネル群保存再生委員会のほか、土幌線ひがし大雪アーチ橋友の会(北海道土幌町)、碓氷峠鉄道遺産群を愛する会(群馬県安中市)、篠ノ井線ケヤキの道(長野県安曇野市)、湊川隧道保存友の会(神戸市)。

県教育委員会文化財保護室長の森繁雄さんは文化財について「活用しなければ保存はない。活用を通じて初めてすばらしさがかかる」とあいさつ。鉄道総合研究所の小野田滋さんは、地下に残る遺産を観光資源にしている国内外の事例を紹介した。後半では、聴衆がステージを囲んで車座になり、一緒に議論した。

会場の参加者は高い年齢層が多く、「若い人に近代化遺産の価値が伝わっていないのではないか」との意見が出る。理事長室家行

観光企画課の橋本成年さん(36)が「若い人の一番の関心は仕事。活動の中にビジネスをいかに組み込んでいくか」と質問。団体ごとの年間予算の収支が映し出され、グッズの販売や体験型のアクティビティーによる収益などが紹介された。

橋本さんは旧国鉄福知山線の廃線跡を活用できないかと考え、同世代の仲間4人で参加した。廃線跡は溪谷沿いにあり、愛岐トンネル群と似た景観。「価値の認証には学会の力もいるし地元の盛り上がりも必要。とても参考になった」と話していた。(松下和彦)

聴衆も車座になり、サミットの議論に加